

※個々の用語・表現につき、イートモ検索で得られた対訳を 1 件のみ提示します。

※実際にはたくさんのイートモ対訳がヒットしますので、文脈に応じて対訳を選択して適当に改変して利用してください。

和文原稿

【薬効薬理】

グルカゴン様ペプチド-1 (GLP-1) は、インスリン分泌促進作用及びグルカゴン分泌抑制作用を有し、糖代謝において重要な役割を果たしている。ビルダグリプチンは、DPP-4 を選択的かつ可逆的に阻害し、内因性 GLP-1 の濃度を高めることで、血糖依存性にインスリン分泌を促進させるとともにグルカゴン分泌を抑制し、血糖降下作用を発揮する。31~34)

1. DPP-4 阻害作用

ビルダグリプチンはヒト血漿 DPP-4 を濃度依存的に阻害し、IC50 値は 2.7nM であった。35) また、ビルダグリプチンは、ヒト DPP-4 (組換え体) に対して高い親和性を示し、Ki 値は 2~3nM であった。31, 32)

2. 血漿 GLP-1 に対する作用

2 型糖尿病患者に本剤 50 mg を 1 日 2 回 7 日間反復経口投与すると、血漿 GLP-1 濃度が上昇した。2)

3. インスリン抵抗性に対する作用

2 型糖尿病患者に本剤 50 mg を 1 日 2 回 41 日間反復経口投与し、インスリンクランプ試験を実施したところ、インスリン抵抗性を表す指標が改善した。36) (外国人のデータ)

4. 血糖降下作用及び耐糖能改善作用

(1) 前糖尿病期及び 2 型糖尿病のカニクイザルにビルダグリプチンを 1 日 1 回 10 週間反復経口投与すると、HbA1c が、投与前値に比較してそれぞれ 0.6% 及び 1.2% 低下した。37)

(2) 2 型糖尿病患者に本剤 50 mg を 1 日 2 回 7 日間反復経口投与すると、食後血糖及び空腹時血糖が低下した。

【薬効薬理】

グルカゴン様ペプチド-1 (GLP-1) は、インスリン分泌促進作用及びグルカゴン分泌抑制作用を有し、糖代謝において重要な役割を果たしている。ビルダグリプチンは、DPP-4 を選択的かつ可逆的に阻害し、内因性 GLP-1 の濃度を高めることで、血糖依存性にインスリン分泌を促進させるとともにグルカゴン分泌を抑制し、血糖降下作用を発揮する。31~34)

Factor Xa is a primary target since this factor plays a pivotal role in the coagulation cascade at the junction of the intrinsic and extrinsic pathways of the coagulation system.

第 Xa 因子は凝固系の内因経路と外因経路が合流する部分の凝固カスケードにおいて重要な役割を果たしているため、この因子が主要な標的となる。

選択的→選択的に

In addition to being a potent inhibitor of ABC and DEF, Drug A also has been shown to selectively inhibit two other tyrosine kinases.

ABC 及び DEF に対する強力な阻害薬であることに加えて、薬剤 A は他の 2 種類のチロシンキナーゼを選択的に阻害することも示されている。

Drug A is an acetylcholinesterase inhibitor that is thought to increase the concentration of acetylcholine through

薬剤 A はアセチルコリンエステラーゼ阻害薬で、コリンエステラーゼによるアセチルコリンの加水分解

reversible inhibition of its hydrolysis by cholinesterase.	を 可逆的に 阻害することを通じてアセチルコリンの濃度を上げると考えられる。
--	---

Compound A inhibits glucagon secretion in a glucose-dependent manner.	化合物 A はグルコース 依存性 にグルカゴン分泌を阻害する。
---	--

Compound A may exert its effects by binding to and modifying phospholipid membranes, thereby modulating the function of membrane-bound proteins.	化合物 A は、リン脂質膜に結合して、それを修飾し、それにより膜結合タンパク質の機能を調節して 作用を発揮する と考えられる。
--	--

1. DPP-4 阻害作用

ビルダグリプチンはヒト血漿 DPP-4 を**濃度依存的に**阻害し、**IC50** 値は 2.7nM であった。35) また、ビルダグリプチンは、ヒト DPP-4 (組換え体) に対して高い**親和性**を示し、**Ki** 値は 2~3nM であった。31, 32)

2. 血漿 GLP-1 に対する作用

2 型糖尿病患者に本剤 50 mg を **1 日 2 回** 7 日間反復経口投与すると、血漿 GLP-1 濃度が上昇した。2)

Drug A and Drug B inhibited CYP3A4/5-mediated testosterone 6-β-hydroxylation and nifedipine oxidation in a concentration-dependent manner.	薬剤 A 及び薬剤 B は CYP3A4/5 介在性のテストステロン 6-β-ヒドロキシル化及びニフェジピン酸化を 濃度依存的に 阻害した。
--	---

Drug A concentration-dependently inhibited human recombinant DPP-4, with an IC50 value of 0.08 nM.	薬剤 A はヒト遺伝子組換え DPP-4 を濃度依存的に阻害し、 IC50 値は 0.08nM であった。
--	--

All these drugs have a high affinity for hydroxyapatite but, unlike Drug A, are resistant to metabolism by endogenous phosphatases.	これらの薬剤のすべてはヒドロキシアパタイトに対して高い 親和性 を示すが、薬剤 A と違って内因性ホスファターゼによる代謝を受けない。
---	--

In addition, actions on differing neuropeptide and/or neurotransmitter systems involved in thermoregulation cannot be ruled out.	また、体温調節に関与する様々な神経ペプチドや神経伝達系 に対する作用 を否定することはできない。
--	---

Drug A doses of 100 mg BID and 200 mg BID provided significant reduction of pain within 24-48 hours of initiation of dosing.	薬剤 A 100mg の 1 日 2 回 投与及び 200mg の 1 日 2 回 投与により、投与開始から 24~48 時間以内に疼痛の著しい軽減《 鎮痛 》がもたらされた。
--	---

3. **インスリン抵抗性**に対する作用

2 型糖尿病患者に本剤 50 mg を 1 日 2 回 41 日間反復経口投与し、インスリンランプ試験を**実施したところ**、インスリン抵抗性を表す**指標**が改善した。36) (外国人のデータ)

4. 血糖降下作用及び**耐糖能**改善作用

(1) 前糖尿病期及び 2 型糖尿病のカニクイザルにビルダグリプチンを 1 日 1 回 10 週間反復経口投与すると、HbA1c が、**投与前値**に比較して**それぞれ** 0.6% 及び 1.2% 低下した。37)

(2) 2 型糖尿病患者に本剤 50 mgを 1 日 2 回 7 日間反復経口投与すると、**食後血糖**及び**空腹時血糖**が低下した。

Disease A patients have significant insulin resistance due to the effect of ABC on insulin sensitivity.	疾患 A の患者は、インスリン感受性に対する ABC の影響に起因する著しい インスリン抵抗性 を示す。
A subgroup analysis was performed, and the results in this subgroup were similar to those in the overall study population.	サブグループ解析を 実施したところ 、このサブグループにおける結果は試験集団全体の結果と類似していた。
Forward scatter is a measure of cell size, and side scatter is a measure of cell granularity or general shape.	前方散乱光は細胞の大きさの 指標 であり、側方散乱光は細胞の粒度又は形状の 指標 である。
GLP-1 administration by intravenous infusion markedly improves glucose tolerance in patients with type 2 diabetes mellitus.	GLP-1 の点滴静注による投与は、2 型糖尿病患者の 耐糖能 を著しく改善する。
The increment over pretreatment values after 1 year was significantly greater for the Drug A group than for the Drug B group.	投与前値 と比較した 1 年後の増加量は、薬剤 A 群のほうが薬剤 B 群よりも有意に大きかった。
A high-carbohydrate meal (80% carbohydrate) decreased mean AUC and mean Cmax by 20% and 60%, respectively.	高炭水化物食(炭水化物分 80%)により、平均 AUC 及び平均 Cmax が それぞれ 20%及び 60%低下した。
Drug A is an effective antidiabetic drug, achieving clinically relevant reductions in HbA1c and fasting/prandial glucose levels at doses of 50-100 mg per day.	薬剤 A は効果的な糖尿病治療薬で、50~100mg/日の用量で HbA1c 及び空腹時血糖値又は 食後血糖値 に臨床的に意義のある低下をもたらす。
By Week 30, the fasting plasma glucose concentration had decreased by 50 mg/dl to 200 mg/dl in the Drug A group and increased by 10 mg/dl to 250 mg/dl in the placebo group.	30 週目までに、 空腹時血糖値 は薬剤 A 群で 50mg/dl 低下して 200mg/dl となり、プラセボ群では 10mg/dl 上昇して 250mg/dl となっていた。